

『市川市塩浜護岸に関する勉強会』結果概要

1. 開催日時 平成18年10月25日(水) 18:00~20:00
2. 開催場所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 22名(委員10名、一般2名、県市6名、報道4名)
4. 座 長 遠藤茂勝委員
5. 次 第
 - 1) 基本断面とバリエーションについて
 - 2) 護岸配置デザインイメージについて
 - 3) その他：10月6日の暴風雨による九十九里浜の災害について(報告)
6. 概 要

基本断面とバリエーションおよび平面配置イメージを説明した。また、10月6日の暴風雨による九十九里浜の災害について現地調査報告をした。

1)基本断面に関する主な質疑、意見について

- ・ 全区間石積み護岸が基本断面か？
→ 事務局：そうである。
- ・ 石積みに芝は本来のものではなく不自然である。
→ 事務局：植生を考えるとということで、芝にこだわらない。
- ・ 護岸天端の角を丸くすることで越波の影響はどうか？
→事務局：(設計計算上では差は無いが) 多少は大きくなると考える。
- ・ 護岸法先の乱積み石の重さはどれくらいか？
→事務局： 1トン以上である。
- ・ 再生計画案では、護岸整備は海とのふれあえる整備を行なうこととしているが、石積みでは滑って危険ではないか。
- ・ 緊急的な整備なので5年間で安全性が確保される断面とすべきである。

2)バリエーション等に関する主な質疑、意見について

- ・ グリーンベルトを確保してこそ魅力ある護岸となる。
- ・ シンボルゾーンの島(磯遊び)など親水的なものは自然再生エリアと一体整備するもので、自然観察ゾーンのデッキと逆にした方が良い。
- ・ シンボルゾーンの島は評価する。
- ・ 島やデッキは3丁目側で考えるべきである。1丁目側では漁業の支障になる。

- ・ 海とふれあえるポイントが少ない。どこからでも海に近づけるよう全面階段と干潟が良いと考える。
- ・ 今回のバリエーションは、基本断面に飾りをつけた最低限のものという感じである。
- ・ 環境に関する実験場等をもっと組み込んだ方が良い。
- ・ 行徳湿地との関連性を考え、自然共生型の護岸を考えるべきである。

粗朶等伝統工法

- ・ 粗朶の活用を考えるべきである。
- ・ 里山等の木材を使った伝統工法の取り込みを検討すべきである。
→ 事務局：県の里山等では杉が主であり腐食するため難しい。
- ・ 粗朶や杭の試験は、現在の施工箇所では漁業の支障となるので、自然再生エリア付近等支障のない場所をお願いしたい。

砂浜

- ・ 砂を入れるバリエーションは考えないのか？
→ 事務局：石積みの基本である。砂を入れてもそのままでは安定しないので今回の計画では考えていない。
- ・ 海とのふれあいの場として砂浜を要望する。
- ・ 砂浜については、三番瀬漁場再生検討委員会などの議論も踏まえ検討すべきである。
- ・ 砂浜は反対である。

隣接エリアとの調整等

- ・ 自然環境学習エリアのイメージを早急に確立する必要がある。
- ・ 三番瀬全体の再生イメージを再生会議で議論していく必要がある。
- ・ アンケート等により地元の意見を反映していくことが必要である。
- ・ アンケートは、地元住民以外にも広く実施してもらいたい。